一般社団法人「子どもと学ぶ歴史教科書の会」会報

つどいの樹

～ 学ぶ会だより ～

創刊号

2020 年９月１日発行

キリマンジャロ山（2014年8月18日、標高3500m付近で撮影）

2014 年８月、アフリカ大陸の最高峰キリマンジャロ山（5895m）に登った。アフリカ分割の時代、山頂は当初イギリス領とドイツ領の境界線とされたが、1885 年のベルリン会議でイギリスからドイツに「プレゼント」された。1961 年タンザニアが独立した時、この頂は「ウフル」（スワヒリ語で「自由」）と名づけられた。1957 年 1 月 19 日、早稲田大学探検隊３人が日本人として初めて登頂した。２人は女性。大学４年の鈴木耿子さんは、海外渡航審査会で「女なんか外国へ出る必要はない」と言われ、「それならどうしても行こうと決心した」と手記に書いている。耿子さんは、戦後民主的な憲法案をまとめた憲法研究会の中心メンバー、鈴木安蔵の二女であった。

（写真・文：鳥塚 義和）

風のいろ

「問い」を発するのは生徒か先生か

安井 俊夫 （「学ぶ会」代表理事）

問題解決学習という授業方法があった。小学校５年生の農業学習で、「庄内平野の人たちはコメ作りをどのようにすすめているのでしょうか」など、問題をたてて、子どもはそれを解決すべく学習を進めていく。「問い」を起点として、それを解いていく主体的な学習が期待された。しかし上記の問題 ―「問い」は子どもがぜひ考えてみたい・解決したいと思うことなのか。先生が考えさせたい「問い」なのではないか・・・。

80 年代のことだが、千葉の小学校で、３年生の子どもたちが「農家の仕事」を学ぶため、「へんだなあ探し」に取り組んだ。農家を訪ね、「へんだなあ」と思ったことをメモしてくる。「なんで土間にごはんのテーブルがあるのか」など、教室で考えあい、農家を再訪問して話を聞き、「やっぱりそうか」と納得する。「土間でごはん」は、まさに「農家の仕事」を如実に語るものだった。「問い」は子どもが発し、そこを起点として主体的な学びへと向かったものだ。先生の指導は「へんだなあ探し」であり、子どもからの「問い」を誘うことだった。

目　次

風のいろ　「問い」を発するのは生徒か先生か　安井 俊夫・・・・2
今・学校で・教室で　コロナ禍－試行錯誤の公立中学校　篠宮 雅代・・・・3
交流の広場
コロナ禍の日本で 20 世紀前半の歴史を学ぶ　野口 恭子・・・・4
私たちも学んでいます！『ともに学ぶ人間の歴史』を　山木 敏子・・・・5
おばさん，「学ぶ」を楽しむ　神　惇子・・・・6
「満州移民」から「もずが枯れ木で」へ　蔵野　武・・・・7
歴史の窓　「神話教育」について　保立 道久・・・・8
学びを深める　第１回 憲法ってなあに？　菅間 正道・・・・9
随想　連載①知ることから広がる…例えばハングルから　黒田 貴子・・・・10
読者の声　・・・・11
学ぶ会からのお知らせ　・・・・12

今・学校で・教室で

コロナ禍―試行錯誤の公立中学校

篠宮 雅代 （東京都・教員）

在校生のいない卒業・入学式

３月２日からの一斉休校で、東京都下の公立中学校では、３年生の都立高の合格発表、卒業式の練習も極力登校させない方向で行われた。卒業式自体は45 分で行うように教育委員会から指示が出された。３年間手塩にかけた学年集団が準備した生徒の「別れの言葉」は縮小版にはなったが、代表生徒が個別登校で練習し、本番一発勝負の合唱も加わり印象深いものとなった。

離任式もなく新しい赴任校でも休業は続いた。卒業式と同じく在校生なしの入学式となった。保護者にかける「おめでとうございます」に満面の笑みが返るも「手洗いお願いします」の言葉が続く。

分散登校とソーシャルディスタンス

マスクが入手困難な中、４月の登校日は手作りマスクなど色とりどりの物をつけた生徒に、先生達は明るく大きな声で声掛けをした。教科書や大量のお知らせプリント類が渡される。週１回の登校も禁止となり、休校が続くことが予想されると、学校の一斉メールで宿題を流し、ホームページで学習の方法や利用できるサイトを紹介するようになった。

この間、学校行事が話題になる。春の運動会は中止決定、プールの授業もなくなり、体育科でできることが限られる。３年男子で休業中に６kg太ったという生徒がいた。体力は低下し、授業再開時に人と接触しない縄跳びやエアロビをすると生徒はグッタリであった。

６月から分散登校に向け準備に入る。３密を避けるべくソーシャルディスタンスを示すポスターや手作りの足跡マーク、２m間隔のテープを貼るなど知恵を絞る。

分散登校開始。クラスを２グループに分け、30 分授業２時間から慣らしていく。登校時の手洗い指導から始まり下校時も密にならないように声掛けをして、すぐに次のグループの迎え入れ。同じ授業を繰り返す。大規模校の本校では１年生が７クラス。同じ授業を合計 14 回もする羽目に。

放課後は教室の取っ手やスイッチ類、水道の蛇口・トイレ内の消毒が教員の仕事になる（写真）。手袋をして次亜塩素酸ナトリウムで消毒液を作る。消毒後、時間をおいて水拭きする。常時マスクをつけ階段往復をしながらの作業は辛い。

マスクをした学校生活の戸惑いと発見

45 分授業３時間になっても分散登校。新しいクラスの仲間づくりもできず、生徒は緊張して授業中の発言なし。ただし、20 人以下の少人数授業になり、マスクで顔が覆われても教員の目は良く届く。

６月第３週には給食も始まり通常授業となる。40 人学級の２年生は３密を避けられない。全員がそろうと身体接触が増える。その度注意はするが、子どもの当たり前の行動にブレーキをかける違和感に悩まされる。給食では、箸はビニール手袋をはめた担任が生徒一人一人に配り、配膳下膳は一方通行にする。もちろん対面は禁止で黒板に向かって食べる。配膳台の消毒は職員が４校時と昼休みに行う。

生徒も教員も授業中はマスクを外せない。その上、教員にマスクの上に装着するようにとフェイスシールドが配られた。授業中マスクだけでも中に熱気がこもるので熱中症になりかねない。第２波が来た時に備えて保管させて欲しいと頼む。

７月以降は月２回の土曜日授業。夏休みは３週間に短縮。１学期は期末考査のみ。宿題で出したところを既習とする、詰込み型で３か月の授業を取り戻そうとする等、教員側の都合で生徒に負担をかけるものになっていないだろうか。それより、全世界を襲ったコロナを題材とした授業が色々な教科で創造されることを願いたい。

オンライン授業は私立学校との差を感じてきた。しかし、ZOOM での授業を自分自身が受けた時、果たして集中力に欠ける生徒へタブレットを与えても授業に参加させられるのか疑問に思った。それでも勤務校の市では寄付のお陰で第２波に備えてタブレットを貸与する予定である。

コロナ禍の日本で20世紀前半の歴史を学ぶ

板橋　大人の学び広場（東京都）　野口　恭子

板橋区の市民学習会に集まった参加者の特徴は、さまざまな人生経験を積んだ年配者が多く、しかも社会的関心が高い人が多い。そのため、近代の歴史を学んでも、現在の日本社会と比較し、毎回多くの疑問や問題点が提出される。

ファシズムへの道

３月からはいよいよ「ヒトラーの独裁」に入った。当時の世界情勢を学ぶ中で、ドイツがヒトラーによってファシズムの道へ進んでいく過程がよくわかった。

戦争を起こす本当の理由は、経済的問題と結びついている。即ち“安い原材料・安い労働力・確実な市場を確保するために他国の領土を奪う”ということだ。

世界恐慌のような非常事態を背景に、人々は生活不安から誤った方向へ誘導されていった。際限のない国債発行、インフレ、経済破綻。失業者続出。法律を変え、或いは解釈を変えていき、民主主義を破壊する。巧妙にデマを流し、差別を助長させ、ターゲットを絞って攻撃、抹殺した。当時のドイツには素晴らしいワイマール憲法があったにもかかわらずこの状態になったのだ。権力はコントロールできないと恐ろしい存在だということをこの歴史から学んだ。

参加者の感想

学習会の中では、ヨーロッパにおけるレジスタンス運動と比べ、当時の日本はどうだったのか。両者の国民性の違いについても話題にのぼった。以下、具体的な内容である。

＊現在のドイツの戦争責任に対する自覚意識に対して、同調傾向が強い日本社会のあり方が顕著に表れている。

＊ドレスデン大空襲の被害者を追悼する集会では、ヨーロッパの被害者・加害者が手を取り合って１万人の人間の鎖を作って、戦争をなくす決意を示したそうだ。一方、東京大空襲の追悼式では、加害の歴史が抜けているように感じる。

＊メルケル首相の演説を聞いて感動したのだが、自分の言葉であのような演説ができるリーダー、また、その演説を感じ取れる国民が育っている。そういうことが日本にとって課題だと思う。

＊命を大事にする。個々の人の権利を大事にする基盤の違いを感じた。

＊真の意味で人権意識を育てるのは学校教育だけではなく、大人になってからの学び「社会教育」の中で広げていかなければならない。

＊「追い詰められた被害者が加害者になっていく」問題を起こす事例の裏には理由がある。こういう社会のメカニズムを理解して人間はどうやって成長していくのかをみんなで考えていきたい。

＊SEALD s の運動に期待する。自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、活動する「I do」の精神が育っているのではないか。

民主主義を健全に機能させるためには

歴史の学習は単に過去の事柄を知るだけにとどまらない。具体的事実を通して、政治を見抜く力、選んでいく力「健全な民主主義」を身に付けていきたい。

私たちの自由権に現在制限があることをだれもが痛感している。しかしこの制限は健康と生命の保護に奉仕すればこそ私たちはこの制限を耐えることができるのだ。信頼なくして民主的な政治共同体は機能することができない。「活発で論争の多い議論・議会での強い反対・批判的な国民」が必要だ。ドイツの人々は、基本法に信頼を寄せている。それは基本権の保障が私たちの国にあっては、71年このかた、最優先事項であったからだ。（独立記念日を前にシュタインマイヤー　ドイツ大統領「基本法71周年」TV演説（2020年）より抜粋）

私たちも学んでいます！『ともに学ぶ人間の歴史』を

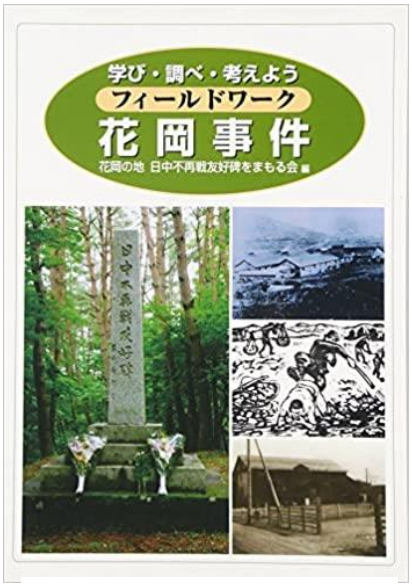
読んで聴いて語る会（秋田県大館市）　代表　山木 敏子

「読んで聴いて語る会」って？

昨年、古書店で知り合った人たちが中心になって、“いま(現代)を知るための手がかりを得たい”という願いのもとに作られた学習会です。毎月「本を読む会」の他に「話題提供」の日を設け、憲法、経済、労働、平和、海外生活体験、天皇制等々、幅広く扱ってきました。参加者数は 15 人前後。年齢、職業、経歴は様々ですが、団塊の世代、女性達が中心になっています。地元紙の掲示板にも案内を出しながら、内容が難しくなり過ぎないことと率直に話し合う自由な雰囲気を大事にすることを心がけて行っています。

「歴史探検カフェー 明治 150 年を振り返る」

昨年の９月、10 月、11 月にわたって３回シリーズで行われた「歴史探検カフェー 明治 150 年を振り返る」は大好評でした。話題提供者は古書店の頃から私たちの会と馴染みが深くいろいろお世話になってきた「花岡の地・日中不再戦友好碑を守る会」代表の富樫康雄さんです。富樫さんはこの教科書『ともに学ぶ人間の歴史』を高く評価し、市民集会などでも時々紹介してくださっていました。



花岡の地　日中不再戦友好碑を守る会編『フィールドワーク 花岡事件』(平和文化)

10 分ほどのコーヒータイムを入れながら、１回にかける時間は２時間半ほど。昨年は３回で「第７章 近代国家へと歩む日本」と「第８章　帝国主義の時代」まで進みました。中学社会とありますが、私たちにはちょうどいい感じで、お陰様で、“歴史教科書は暗記だけで面白くないものだ”というイメージが払しょくされました。ストーリー性があり、歴史的流れがとらえやすいように工夫されているような気がします。権力者ではなく、そこに住む一般市民の目線を大事にしているので私たちにとって親しみやすく共感できるものになっているような気がします。歴史を学ぶ大切さを痛感させられた３か月にわたる話題提供でした。

参加者みんなで同じ教科書（プリント）を広げて勉強できるということだけでも、中学、高校時代に戻ったようでうれしいものがあります。ましてや、質問すれば何でも丁寧に答えてくださる先生がいるという、久し振りに味わう贅沢感でした。中高生の頃に比べると、参加者自身の体験や知識が豊富になっているから、それだけ話し合いの内容も深く豊かになりえます。教科書の史実と関連のある県内・地元の状況に話が及ぶこともよくあります。

今年は新型コロナの影響を案じながらも、９月、10 月に「第９章　第二次世界大戦の時代」を学ぶ計画をたて、楽しみにしているところです。

参加者の感想から一部抜粋

・私たちが学校で学んだ授業では、私たちが引き継ぐべき近代史から現代への関わりへの認識が欠落していることを改めて確認できました。私たちが何を教訓として、韓国・アジアとどう付き合うのか教えてくれます。(70 代男性)

・学校で“韓国併合”という言葉は聞いたような気がしますが、具体的にそれがどんなことなのか、今まで考えたことはありませんでした。この教科書を基軸にして、さらに情報を集めて“徴用工問題”や韓国の人々への理解など、深めてみたいと思います。(70 代女性)

・明治維新や自由民権運動などに関心を持つようになり、あれこれ本を読み調べているところです。来年も是非、今回の歴史の続きを学びたいと願っています。(70 代女性)

・学ぶ意欲をかきたてられる驚きの教科書でした。闘う女性の記述が多いということにも、衝撃を受けました。「ゴジラ」や「オードリー・ヘプバーン」など身近な題材で興味を持たせる工夫がされており、また巻末の年表や各章の色分けなど学習しやすく編集されていることにも感心しました。(60 代女性)

おばさん、「学ぶ」を楽しむ

人間の歴史をともに学ぶ会（千葉県松戸市）　　進行役　神 惇子

はじまり

教育委員会会議を傍聴した後の雑談の中で、「歴史の学び直しをしたい」という私のつぶやきが、同席した２人の共感を得て始まりました。テキストは学び舎の中学校歴史教科書としました。若い頃に近現代史を学なかったという嘆きをしばしば聞いていたので、そんな人にも声をかけて、お茶会風に始めました。

最初は 2018 年５月でした。喫茶店の地下で、第７章から輪読形式で、途中からは会議室をお借りしています。参加者は様々な市民運動にかかわりを持つ女性たち７人です。

前回の学ぶ会「第３世界と東西陣営」の様子

窓とドアを開放し、持ち込んだ自家菜園の野菜を分け、お菓子を並べてわいわいがやがやと始まりました。

初めに、1964　年オリンピックの頃の各自の立場を確認すると、社会人または主婦２人、大学生２人、中高生３人・・・。開会式の派手な演出や新幹線のこと、体育の日のことなど話題は豊富でした。

閉会式の写真から、1960 年代にアフリカ諸国の独立が相次いだことを確認しましたが、Ａさんがザンビア国旗のデザインによるバックを皆さんに披露しました（写真）。

ベトナム戦争についても話題はいっぱいでした。ホーチミン市で地下道戦の戦跡を見た人、ツーズー病院を訪問した人、そして映画を通してベトナム戦争を理解した話、例えば『無人の野』(ベトナム映画)、『プラトーン』など。

教科書の年表から日本の侵略に気づき、ベトナム特需に至るまで、ベトナムと日本の強く深い関係を押さえました。

ベトナム反戦運動の中から、黒人の公民権運動や、女性たちのウーマンリブ運動、世界的な学生たちの反体制運動が盛り上がったことなど、話は尽きません。「Black Lives Matter」運動で公民権運動到達点の限界を知りました。

米ソ（東西）対立という基本的な構図の中で、ベトナム戦争は戦われ、日韓合意は無理やりもたらされ、非同盟中立の悲願はかき消されていったことに気が付きます。

コラムを読んで、「プラハの春」を生き抜いたチャスラフスカの話から、共産党とは何だろう？の議論が盛り上がりました。

オブザーバーとフィールドワーク

前回の学ぶ会では、「声なき声の会」会員として小林トミさんを深く敬愛するＡさんが『声なき声のたより』合本を見せてくれました。Ｉ さんは秩父事件現地調査や済州島４・３事件のスタディツアーの参加体験を話し、Ｙ．Ｊさんは毎年８月「原爆の絵」展に皆さんを誘います。天皇の戦争責任問題に強い関心を持つＭさんは敗戦のところでレポートを書きました。新憲法制定のところで、Ｔさんはベアテさんの資料を配布しました。憲法９条を発案したのは誰かをめぐっては、いろいろ報道もあり、議論になりました。互いの知見や体験を交換し合えることもこの会の楽しみです。

講師を依頼せず、自分たちで勉強してきましたが、教科書づくりに関わっている教員を講師に模擬授業「日露戦争と松戸の人々」を一般公開で行ったこともあり、好評でした。退職したその方が時々、学ぶ会にオブザーバー的に参加するようになり、教科書編集の意図を直接うかがえるのも興味深いものがあります。

朝鮮の３・１独立運動の学習をした後には、「高麗（こうらい）博物館」を見学し、新大久保の街を体験しました。今年は「東京大空襲戦災資料センター」訪問を考えていましたが、コロナ禍にぶつかってしまったので、もう少し様子を見ることになりました。

「満州移民」から「もずが枯れ木で」へ

全日本年金者組合調布支部･近現代史を学ぶ会（東京都）　蔵野　武

我々のサークルは、14 人で発足して２年ほどになる。学び舎の教科書がＮＨＫのクローズアップ現代、朝日・東京新聞などで取り挙げられていた頃、小生は、近現代史に疎いことを、時々痛感させられることがあった。そこで、この教科書を使って、近現代史を学ぶ会を立ち上げようと､同志を募ったところ、すぐに賛同者が出た。以来、「ああそうだったの？」「えっ、そんなことが！」と思うことがしばしば。

この日のテーマは「鉄道爆破から始まった」（ｐ.230）であった。いつも通り、まず全員で本文と図版や注などを輪読したあとに、疑問や感想を出しあった。「なぜ爆破直後の写真が撮れたのか」「張作霖爆殺事件も満州事変も関東軍がしかけたとは、知らなかった」「どうして満州がねらわれたのか」など、次々と疑問が出た。

そのあと助言者の解説のなかで、爆破事件に関わった「奉天特務機関員の回想」や日本が国連総会の脱退を報じた新聞を読んだりして、歴史の真相に触れた。「満州移民が入植した土地はほぼ奪った土地だったのか」や「真実が隠されるのは今も同じ」という意見も出た。

小生は教科書を事前に読んで、満州移民のことを調べている内に「満蒙開拓青少年義勇軍」と「内原訓練所」を知った。そこで、これについて、自由研究として発表した。その一端を紹介したい。

「満蒙開拓青少年義勇軍」と「内原訓練所」

1936 年広田内閣は 1956 年までの 20 年間に 500 万人の大規模移住を計画した。実際には戦時中の一定時期までに 27 万人が満蒙開拓に送り込まれた。

これを支援し、周辺の警護をするとともに自らも開拓にあたる者として「満蒙開拓青少年義勇軍」が組成されることになった。成人移民を補充するものでありながら、その名称が「青少年義勇軍」であるのは、戦争遂行に挺身することを、軍国主義的意識の昂揚した青少年に訴えるためであった。そのために茨城県東茨城郡下中妻村内原に「内原訓練所」が設立された。移民は貧農層が多かったのに対し、青少年義勇軍は高等小学校の成績上位・中位層が中心になった。自由な応募が原則であったが、実態は政府から各都道府県の各高等小学校への割り当てが決められ、担当教師が卒業生（数え年 16～19 歳）に自ら応募するよう働きかけた。学校教育の果たした役割と責任は重大だったことも知った。

各都道府県で選抜された青少年一期生 300 人を標準として、３か月間、学習・武道・体育・農作業の基礎訓練を受けた後に、満州国の現地での訓練を経て義勇隊開拓団として入植した。1938 年から 45 年まで８万６千人の青少年が送り出された。その実態は、入植地の環境も一般開拓団以上に厳しく、幹部にめぐまれない場合は、精神的に耐えられず生活がすさみ、暴力事件や周辺農民との軋轢を起こしたようだ。

「もずが枯れ木で・・・」

発表後、Ａさんが「私の同級生が内原訓練所に進んだ」との声。また、歌が大好きなＢさんから「『もずが枯木で』という歌は、今日の話に関係がありそう。調べてくるわ」との発言で、それが翌月発表された。

1952 年頃からの「歌声運動」のひとつとして盛んになったこの歌は、ある少女が集団学童疎開で茨城県に疎開していたときに、覚えていたものを、戦後東京で耳にした音楽家が採譜して広めたものだった。まもなく、作詞者と作曲者が名乗り出たという。

この歌には、満州に出征した兄を案じる妹の気持ちが込められている。Ｂさんの先導で、みんなで斉唱した。当時の農村の家族になったつもりで。

１．もずが枯れ木で鳴いている
　　おいらは藁をたたいてる
　　綿ひき車はおばあさん
　　コットン水車もまわってる
２．みんな去年と同じだよ
　　けれども足んねえものがある
　　兄（あん）さの薪割る音がねえ
　　バッサリ薪割る音がねえ
３．兄さは満州に行っただよ
　　鉄砲が涙で光っただ
　　もずよ寒いと鳴くがよい
　　兄さはもっと寒いだろ

歴史の窓

「神話教育」について

保立 道久 （コアアドバイザー・東京大学名誉教授）

「神話教育」について

私は３・11 以降、地震と火山の研究を始めたものですから、当時、色々なところに呼ばれて講演しました。その場合、スサノヲやオホクニヌシが地震を起こす神であったことを講演の最初の導入にしたのですが、ある高校でうまく話しが通じないので、スサノヲという神を知っている人と手を挙げてもらったら、クラスのうち五人も知らなかったので大変に驚きました。

倭国神話は地震火山神

これについて皆さんはどうお考えでしょうか。私は『歴史のなかの大地動乱』（岩波新書）で述べましたように、倭国神話の中心には地震火山神話があると考えています。そもそも本居宣長が明らかにしたように、倭国神話の至上神は高御産巣日（タカミムスヒ）という神ですが、この神はギリシャ神話のゼウスと同じく、巨大な雷電の使い手で、雷電によって火山噴火を起こす神です。

日本の学者の中で、正面から日本の神話を大事にすべきだという人はきわめて少ないと思いますが、私は、こういう地震火山神話は地殻地盤災害の続く現代日本において文化として共有すべきものだと考えます。

文化の非神話化はよいことか

私が想起するのは、3・11 直後、マスコミが「安全神話」という言葉を流したことです。私は、原発が安全であるというのは「安全宣伝」の結果であったと考えていますので、これは責任逃れのために「神」を呼んだという罰当たりな行為だと感じました。

ただ客観的にいえば、このような言葉使いは、人々にとって「神話」というものが他人事であり、神話が文化の外に存在していることを示すのでしょう。このような文化の非神話化は、アジア太平洋戦争を引き起こした大日本帝国が神話をイデオロギーとして徹底的に政治利用したためです。いわゆる「皇国史観」ですが、その解体が日本社会から文化としての神話を一掃してしまいました。

アマテラス中心主義は問題

しかし、皇国史観は「アマテラス＝万世一系の天皇」というイデオロギーに過ぎません。倭国神話のパンテオンにはより重要なタカミムスヒ・スサノヲ・オホクニヌシなどの神々、また地母神としてのカミムスヒ・オオゲツ姫がいました。これらの神々を切り捨てて「皇祖神アマテラス」を中心にして乱暴に単純化したのが皇国史観の神話でした。こういう神話史観を殆どの国民が信じたことは極めて重たい事実です。そうである以上、私は、「まがい物」でない現実の神話像が国民の歴史意識において常識化するまでは、あの戦争の経験を清算することはできないと考えています。

第４期国定教科書『尋常小学国史』の挿絵（「神武天皇」）

こういう中で現代の神道が、神話の十分に学術的な理解を欠いたままであるように見えることも心配なことです。「神を信じるものも信じないものも」という言葉がありますが、私はそれを神道についても維持するために学術文化の世界でなすべきことは多いと思っています。

以上、舌足らずですが、「保立道久の研究雑記」（https://note.com/michihisahotate）にも関係記事がありますので、どうぞ御参照ください。

学びを深める

子ども・若者を主権者／市民に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ

第１回　憲法ってなあに？

菅間 正道　（自由の森学園高校教頭）

憲法を「他人（ひと）ごと」から「自分ごと」へ

「公民（憲法学習）」を含む社会科と言えば、暗記教科の代名詞である。しかし、市民性（シティズンシップ）教育が謳われる今こそ、知的に楽しく学び、主権者／市民としての見方・ちからをつける学習が切実に求められている。とはいえ、それは容易ではない。子どもも大人も、「憲法など自分と関係ない」という認識は少なくないからだ。では一体、どうすれば憲法が「自分ごと」になるのだろうか。

今回から、4 回の連載を担当することとなった。全体を貫く「通奏低音」としてこの問い―憲法をいかに「他人ごと」から「自分ごと」に近づけるのか―を意識した憲法学習実践を中心に書いていきたいと思う。

えん罪と「身体の自由」

憲法を「自分ごと」に近づけるためには、「自分の人権が侵害される」こと、「憲法の条文が切実性をもつ」現実に直面する必要がある。リアルで具体的な事例抜きに、教師が一方的に憲法を「条文暗記」や「お説教」で伝えても、子ども達には遠い。もっとも、現実に「人権侵害」をされるなどトンデモナイことだ。そこで、憲法学習の中で教材や問いを媒介に、「疑似体験・思考実験」を試みる。

以前、私は普段の授業をそのまま本にする、というコンセプトで憲法の入門書（『はじめて学ぶ憲法教室　1 巻～4 巻　新日本出版社』）を書いた。第１巻のタイトルは「憲法は誰に向けて書かれているの」。中学 3 年生が殺人犯に仕立て上げられる「綾瀬母子殺害事件」という少年えん罪事件から入って、「身体／人身の自由」と言われる、刑事事件で疑われた人の細かな人権保障規定（憲法 31 条～40 条）を知る。お前が“殺人犯だ！”と言われ、自分のアリバイ（不在証明）が容易に立証できないことを知り、自白を強要される凄まじい尋問の様子を読む。その「圧倒的現実」に身を乗り出し、ぬれぎぬを着せられる事実を丁寧におさえながら、憲法がその事実といかなる関係にあるのかを学ぶのである。「他人（ひと）ごと」で「まったく自分に関係なく」、はるかに遠かった憲法が一気に身近なものとなる。

憲法―政府に対する命令書

この「身体／人身の自由」、平たく言えば「勝手に捕まえるな／殺すな」ということこそが憲法＝権力制限規範の原点である。公民の教科書にこう書いた。

> 憲法とは何だろうか。そのことをわかりやすく示している条文が第 99 条である。（中略）このように憲法とは、「権力者を縛るもの」であり、「政府に対する命令書」なのである。「拷問及び残虐な刑罰は、絶対にこれを禁ずる（第 36 条）」とあるのは、国家・権力者に対して書かれている文言である。憲法は、国民を縛るものではなく、国家・権力者を縛り、その暴走に歯止めをかけるものなのである。冤罪とは、国家権力の暴走の結果おこった一例といえる。（「冤罪と日本国憲法―憲法とは何か？」『中学・公民　日本の社会と世界』p. 39＜清水書院、2015 年版＞）。

このように、私の憲法学習は、「人身の自由」と 99 条から入る。

“憲法は権力者を縛る鉄の鎖であり、市民の権利を守る宣言書（マニフェスト）である”――この「ひとこと」を深く、実感をもって理解してもらうための「ゆたかな回り道」、これをこそ学びと呼びたい。

連載① 知ることから広がる・・・例えばハングルから

黒田 貴子（中学校講師）

ハングルとの出会い

初めてハングルと出会ったのは、中１の夏休み。友だちと行った大阪の扇町プールでした。遊泳の終了時間に、友人と私は最後のひと泳ぎをしていて、プールから上がるのが遅くなりました。顔を上げると、いつの間にかプールサイドのフェンス一面に、鮮やかな色彩のハングルの文字が書かれた看板が掲げられていたのです。翌日行われる民族学校の水泳大会の準備でした。その鮮やかな看板に私が感じたのは、異質なものに対する怖さでした。

一昨年、北朝鮮の「ミサイル発射」に関連して、Ｔ新聞が朝鮮学校を取材した記事を載せました。Ｔ新聞はリベラルな紙面に好感を持ち講読しているのですが、この記事には、強い違和感がありました。さほどの分量でもない記事の中に「ここにも、あの不可解な文字が！」という表現が何度も出てきて、記者の朝鮮学校への警戒心が感じられました。「少しぐらいハングルの勉強してから取材に行きなさいよね」とつぶやきながら、あ！これが、私が扇町プールで感じた知らないものに対する恐怖心だ、と気づいたのです。

李朝白磁に惹かれて

私と朝鮮との次の出会いは、やはり中学時代、祖母と訪ねた寧楽美術館（戒壇院の近く）でした。小さな李朝白磁の小壺を見た祖母が「この色合いはいいねえ！」と言ったのを、ちょっと背伸びして「本当ね」と相づちを打ち一緒に見入った時でした。何とも暖かみのある白さだと感じました。その後、歴史研究部の友人たちと明日香や奈良を訪ねる中で、渡来人のもたらした文化の豊かさを知り、ますます朝鮮に惹かれていきました。

ところが、ふと気がつけば、こんなに素晴らしい文化を生み出した朝鮮人が差別されています。どうしてなの？と憤りを持って中学生なりに考え始めました。授業で、日本が植民地にした朝鮮で行ったことを知り、日本が朝鮮に日本語を押し付けたのだったら、私は朝鮮語を学ぼうと思いました。

生徒たちに伝える

ですが、私のハングルは初級止まりです。スキーで言えばボーゲンでしょうか？それでも、何とか生徒たちに伝えたいと思いました。ハングルの五十音表である反切表を配り、ハングルは、朝鮮の世宗（セジョン）大王が学者たちに作らせた合理的な文字であること。母音と子音を組み合わせるローマ字と似たものであることなどを説明してから、簡単な挨拶や単語を紹介します。自分の名前をハングルで書けた生徒たちは、他の教員に見せたり、駅名の表示など、町に溢れるハングルを見つけ、それを読めることの喜びを知ります。何人かの生徒は、新大久保にある高麗博物館を訪ね、チマチョゴリの試着をした可愛い写真を見せてくれました。

授業参観で「ハングル入門」をおこなった時、韓国ドラマが大好きなお母さんに間違いを指摘され、冷や汗をかきながら、そうだ、韓流ドラマという入口もあるんだと感心しました。

言葉を知ることから、隣国への親しさと関心が広がっていきます。

ハングルで書かれた掲示物　　朝鮮学校の教室で

読者の声

●学び舎の『ともに学ぶ人間の歴史』の検定合格おめでとうございます！ ざっと目を通すと、Ａ４版の特徴かと思いますが、写真や図が多く、読みやすい、美しいと思いました。

もちろん、平和、人権、民主主義が貫かれている教科書ですから、文言にヒューマニズムを強く感じます。脇において、必要な時に参考歴史書として使っていきたいと思います。少年飛行兵や象列車の話もふくめて、いいですね。

「子どもと学ぶ歴史教科書の会」に入会させていただきます。　（福井県　平野治和）

●こんな壮大なことを立上げ成し遂げられ次のステップに向かっておられることにただただ深く敬意を表します。

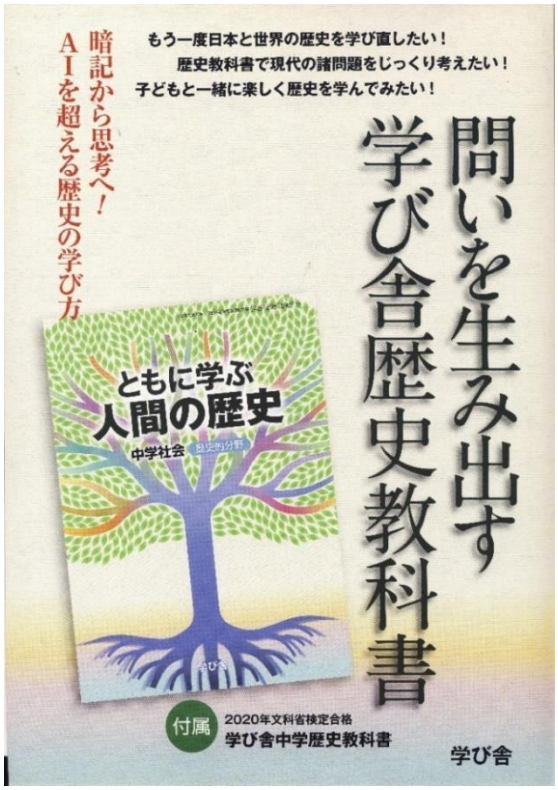
開いて最初に、正直申しましてデザイン的な完成度の高さに、良い意味で想像を裏切られました。構成や編集がこんなに完成度が高い“教科書”に出会うとは。チームの皆様の理念や思想や目的がぶれずにあり、それがクリエイターや関わる全ての人へはっきり伝わっているからだとひと目でわかります。タイトルとサブコピーの（通常見慣れた）主従を逆にする意味、見開き完結の手法、メイン写真の配置や大きさや選択も相当なエネルギーを込めた作業だと伝わってきます。目的が明確だと形がこうなるという意味ではクリエイターの教材にもなりそうです。

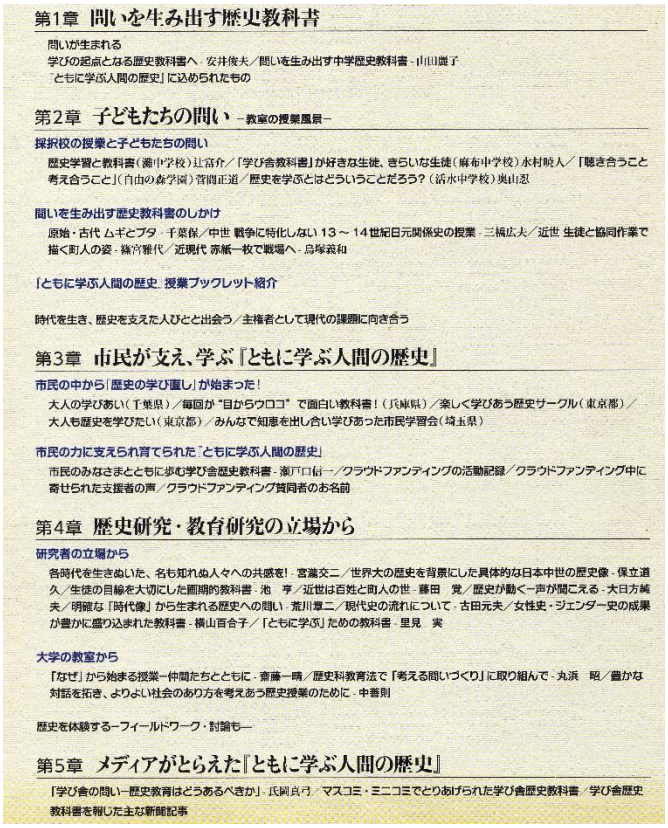
事柄の背景への誘いという狙いを考えれば、近現代の比重や年表のつくりもこうなるのかと。一昨年、道東でオホーツク文化や擦文文化を見てきましたので、３本の流れを表現したこの年表はとても貴重です。使わせて頂きます。

皆さまのコメントも示唆に富んでいました。事業たちあげからの想像を絶するご苦労だったであろう道のりもありました。採択へのハードルの高さもさぞやと拝察いたしますが、私も心から応援し勉強させて頂きます。応援者が広がることを祈っております。　（福岡県　松山ちあき）

『問いを生み出す学び舎中学歴史教科書』（付属 学び舎中学歴史教科書、2020 年 5 月発行）

好評発売中　定価2700円＋税





第1章　問いを生み出す歴史教科書

問いが生まれる
学びの起点となる歴史教科書へ - 安井俊夫／問いを生み出す中学歴史教科書 - 山田麗子
「ともに学ぶ人間の歴史」に込められたもの

第2章　子どもたちの問い －教室の授業風景－

採択校の授業と子どもたちの問い
歴史学習と教科書（灘中学校）辻富介／「学び舎教科書」が好きな生徒、きらいな生徒（麻布中学校）水村暁人／「聴き合うこと考え合うこと」（自由の森学園）菅間正道／歴史を学ぶとはどういうことだろう？（清水中学校）奥山忍

問いを生み出す歴史教科書のしかけ
原始・古代 ムギとブタ - 千葉保／中世 戦争に特化しない 13～14世紀日元関係史の授業 - 三橋広夫／近世 生徒と協同作業で描く町人の姿 - 篠宮雅代／近現代 赤紙一枚で戦場へ - 鳥塚義和

「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット紹介

時代を生き、歴史を支えた人びとと出会う／主権者として現代の課題に向き合う

第3章　市民が支え、学ぶ『ともに学ぶ人間の歴史』

市民の中から「歴史の学び直し」が始まった！
大人の学びあい（千葉県）／毎回が“目からウロコ”で面白い教科書！（兵庫県）／楽しく学びあう歴史サークル（東京都）／大人も歴史を学びたい（東京都）／みんなで知恵を出し合い学びあった市民学習会（埼玉県）

市民の力に支えられ育てられた「ともに学ぶ人間の歴史」
市民のみなさまとともに歩む学び舎歴史教科書 - 瀬戸口信一／クラウドファンディングの活動記録／クラウドファンディング中に寄せられた支援者の声／クラウドファンディング賛同者のお名前

第4章　歴史研究・教育研究の立場から

研究者の立場から
各時代を生きぬいた、名も知れぬ人々への共感を！ - 宮瀧交二／世界大の歴史を背景にした具体的な日本中世の歴史像 - 保立道久／生徒の目線を大切にした画期的教科書 - 池　享／近世は百姓と町人の世 - 藤田　覚／歴史が動く－声が聞こえる - 大日方純夫／明確な「時代像」から生まれる歴史への問い - 荒川章二／現代史の流れについて - 古田元夫／女性史・ジェンダー史の成果が豊かに盛り込まれた教科書 - 横山百合子／「ともに学ぶ」ための教科書 - 里見　実

大学の教室から
「なぜ」から始まる授業－仲間たちとともに - 斎藤一晴／歴史科教育法で「考える問いづくり」に取り組んで - 丸浜　昭／豊かな対話を拓き、よりよい社会のあり方を考えあう歴史授業のために - 中善則

歴史を体験する－フィールドワーク・討論も－

第5章　メディアがとらえた『ともに学ぶ人間の歴史』

「学び舎の問い－歴史教育はどうあるべきか」- 氏岡真弓／マスコミ・ミニコミでとりあげられた学び舎歴史教科書／学び舎歴史教科書を報じた主な新聞記事

学ぶ会からのお知らせ

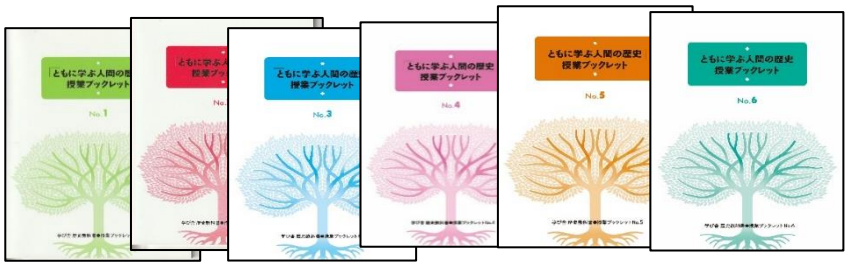
「子どもと学ぶ歴史教科書の会」は、任意団体から一般社団法人に変わりました。その「学ぶ会」の会報を年４回発行することになり、ここに創刊号をお届けします。会員の皆さまの楽しい交流の場としていきたいと考えています。各地で行われている学習会のようすを「交流の広場」で紹介し、「読者の声」のコーナーも設けました。ぜひ教科書や会報へのご意見やご感想をお寄せください。また、学習会やフィールドワーク、講演会などの情報なども下記事務所（メールアドレス）宛てにご連絡ください。

一般社団法人「学ぶ会」への会員登録は順調に進み、元からの会員の方、サポーターの方を中心に新規加入の方も多くいらっしゃって、８月 10 日までに約 400 名の方が会員登録をしてくださいました。まだ登録の手続きをされていない方は、同封のパンフレットをご覧いただき、登録をしてくださることを心から希望いたします。

コロナ禍の中、お体に気をつけてお過ごしください。次号は 12 月に発行予定です。

「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット

ご注文は
学び舎へ



No.7
9 月末 発売！
定価:700 円＋税

楽しくわかる・深く学べる
『ともに学ぶ人間の歴史』ガイド
改訂版教科書で新しく
なった部分を詳しく解説
定価 1400 円＋税

奈良時代の人々の日記を書こう●小林　朗
　－中学生が良民と奴婢となって綴る
ラッコと「夷酋列像」●横山百合子
　－19 世紀の北太平洋世界とアイヌの人びと
「国病」の根を断ち「万民安穏」を願う●小松克己
　－武州世直し一揆の具体像
「教室」からみたハンセン病問題●江連恭弘

学び舎：manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp

一般社団法人　子どもと学ぶ歴史教科書の会（略称「学ぶ会」）
事務所住所　〒190-0022　東京都立川市錦町３－１－３－６０５
メールアドレス　manabukai@mbf.nifty.com
ホームページ　http://www.manabisha.com
編集・発行　一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会
タイトルDesign　株式会社久保田デザイン工房